



京都市教育委員会は学校教育と生涯学習を通じて、SDGs17の目標の達成に向け取り組んでいきます

京都はぐくみ憲章

～子どもを共に育む京都市民憲章～



わたしたちは、

- －子どもの存在を尊重し、かけがえのない命を守ります。
- －子どもから信頼され、模範となる行動に努めます。
- －子どもを育む喜びを感じ、親も育ち学べる取組を進めます。
- －子どもが安らぎ育つ、家庭の生活習慣と家族の絆を大切にします。
- －子どもを見守り、人と人が支え合う地域のつながりを広げます。
- －子どもを育む自然の恵みを大切に、社会の環境づくりを優先します。

平成19年2月5日(育児ニコニコ笑顔の日)制定
3月13日 京都市会が憲章推進を決議

ご利用ください
はぐくみコール

「子育て支援総合電話窓口(はぐくみコール)」
本市が行っている子育て支援に関する施策等を幅広く紹介しています。
(年中無休) 午前8時～午後9時 TEL:075-254-8087



京都市の 教育改革

市民ぐるみ・地域ぐるみで進める

…………… 目指す子ども像 ……………

伝統と文化を受け継ぎ
次代と自らの未来を創造する子ども

「番組小学校」創設の精神を今に

京都は幕末から明治にかけ、人口が33万人から23万人に激減するという衰退の危機を迎えました。この時、京都の町衆は、「まちづくりは人づくりから」と子どものいるいないにかかわらず、電のある家はすべて「電金(かまどきん)」と呼ばれるお金を出し合い、地域の子どもたちが学ぶことができる64の小学校を創設し、運営の主体を担いました。この日本最初の地域制小学校である「番組小学校」が誕生したのは、明治5(1872)年の国の学制発布に先立つ、明治2(1869)年のことであり、平成31(2019)年、番組小学校創設から150年を迎えます。

本市では、こうした歴史と伝統を礎に、家庭と地域社会との連携・協働による「開かれた学校づくり」を基盤とする、市民ぐるみ・地域ぐるみの教育を推進してきました。

今、「地球上誰一人取り残さない」ことを誓い、国際社会が連携して2030年までの達成を目指す17の共通目標「SDGs」の取組が、あらゆる分野で進められており、とりわけ、このすべての目標の実現に向けては、「教育」の果たす役割に大きな期待が寄せられています。

あらためて、まちの発展を教育の力に託した京都の先人の理念と志を、保護者・地域・市民の皆様と確認するとともに、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという新しい学習指導要領の理念の実現に向け、本市教育の歩みをさらに確かなものとしてまいります。

京都市教育委員会

市民と共に進める京都ならではの教育改革

学校・家庭・地域の絆 「学校運営協議会」と「学校評価」

■「京都方式」の学校運営協議会

学校運営に保護者や地域の方等が参画する「学校運営協議会」制度を積極的に導入し、平成30年度末現在、全国市町村で最多の245の市立学校・幼稚園（小学校は政令指定都市初となる全校）に設置しています。



▲学校運営協議会

本市では、「地域の子どもは地域で育てる」という理念の下、「子どもたちのために大人として何ができるのか」を学校と一緒に考え、共に汗をかき行動する「学校の応援団」として教育活動を支援していただいています。

■学校評価への関わり

学校の教育活動を振り返り、改善につなげる「学校評価」を全校・園で実施しています。日々の子どもの姿や各種調査、児童・生徒及び保護者等のアンケートを踏まえた学校による自己評価に加え、学校運営協議会や学校評議員による学校関係者評価も実施し、結果を公表するとともに、よりよい学校づくりに役立てています。

京都ならではの伝統文化教育・体験

地域の方や大学、博物館、神社仏閣、企業、文化庁等の協力を得て、文化的・歴史的遺産や、地域の伝統行事などを通し、京都ならではの伝統文化教育や体験活動を行っています。

■茶道・華道をすべての子どもが体験（小・中・高）

・文化庁の京都への全面移転を見据え、小・中・高等学校で一貫して茶道（小・高）・華道（中）など生活に根付く伝統文化を体験することで、豊かな人間性を育むとともに、次代の「担い手」「支え手」の育成を進めていきます。

■伝統文化体験の充実

・小・中学校へ和装・琵琶・能楽などの専門家を派遣することにより、「ほんもの」の伝統文化に触れる活動の充実を図っています。



▲茶道体験

・「古典の日記念 京都市平安京創生館」（京都市生涯学習総合センター1階）では、案内ボランティアの解説により、平安京を体感する学習に取り組んでいます。

■歴史都市・京都から学ぶジュニア京都検定

京都の伝統と文化を次代へ継承し、その魅力を発信できる子どもたちを育てため、独自のテキストを小学4年生全員に配布。小学5年生に「基礎コース」、6年生に「発展コース」を実施しているほか、京都の特色を生かした体験活動を実施しています。



▲祇園祭のお囃子体験

また、「ジュニア京都検定」で育んだ興味・関心・知識をさらに深めるため、市内在住・在学の中高生を対象に「京都・観光文化検定試験（3級）」（主催：京都商工会議所）の受験の機会を提供しています。

「支え」「守り」「高める」 ボランティアの方々の活躍

■学校支援ボランティア

伝統文化・芸術・スポーツ等、様々な分野の豊富な知識や技能を持った多くの市民の方々に、子どもたちの教育活動がより豊かなものとなるよう支援していただいています。

■大学のまち京都で活躍する「学生ボランティア」

大学との連携の下、教員を目指す学生や専門的知識・技能をもった学生（約2千名）が学校・幼稚園で授業や部活動など様々な教育活動を支援しています。学生自身が教育実践を具体的に学び、成長する機会にもなっています。



学生ボランティアによる支援▶

■見守り隊

全小中学校区で、約2万人の保護者や地域の方、学生、地元企業の方々に、通学路などで、登下校中の子どもたちの安全確保のための活動を日々展開していただいています。



Do You Kyoto ? 環境モデル都市・京都での取組

「地球環境京都会議2017(KYOTO+20)」における、持続可能な社会の実現に向けた「京都宣言」を踏まえ、全小・中学校でSDGsの視点を盛り込んだ「新・環境宣言」を策定するなど、全国に先駆け取り組んできた環境教育の深化を図っています。

■環境にやさしい学校

各学校での環境宣言やKES学校版（環境にやさしい学校）の全校認証を踏まえ、節電・節水、清掃活動などの環境改善に向けた取組を進めています。また、小学校では子ども版「環境家計簿」を実践する「子どもエコライフチャレンジ事業」や様々な環境学習施設での体験学習に取り組んでいます。



▲学校ビオトープでの学習

■京都商工会議所による環境学習事業

京都の様々な企業に自社の環境技術や環境問題への取組をテーマとした授業を学校を訪問して実施していただいています。

大学のまち・ものづくり都市ならではの 産・学・公の連携

■京都まなびの街生き方探究館

地域や社会との関わりの中で自分らしい生き方を考える「生き方探究（キャリア）教育」に特化した体験型学習施設。企業等の協力の下、施設内に再現された「街」での職業体験や生活設計体験、京都のものづくり企業創業者の生き方やものづくりの基礎を学ぶ学習などを展開しています。

■大学との連携

・124大学と連携協定を締結し、相互の教育活動の充実を図っています。
・京都大学とは、大学の最先端の研究に触れることができる学習や、総合博物館や附属天文台などの研究施設での体験学習を実施しています。
・AIなどの最新技術を活用した未来型教育の実証事業など、産学公の連携により先進的な教育の研究を進めています。



▲京都大学附属
花山天文台での学習

■京都芸術教育コンソーシアム～Art-e Kyoto（アルテ京都）～

京都・滋賀の芸術系5大学と小・中学校が連携し、芸術教育の充実をはじめ、学校の余裕教室で子どもたちが大学生の制作活動に日常的に接するなど、特色ある取組を進めています。

■京都教育懇話会

京都を中心とした企業・大学・行政や市民等が会員として集い、グローバル新時代の「人づくり」について、様々な視点から議論を深め、フォーラム等で広く提言・発信しています。

■京（みやこ）少年少女モノづくり倶楽部

京都まなびの街生き方探究館では、小中学生を対象に、興味・関心に応じた多様なものづくり活動の機会を提供するため、企業や大学、各種団体等の協力を得て、市内各所で実施されるものづくり講座等の情報を発信しています。



■未来のサイエンティスト養成事業

青少年科学センターでは、小中学生が自らテーマを決めて取り組む研究活動を支援したり、大学・企業等の実験教室に参加し最先端の技術を学んだりしながら、学校では体験できない科学の不思議や面白さを体感します。

地域との「共汗」で取り組む学校統合 新しい時代を創造する学校づくり

■児童生徒数が減少している地域では、保護者や地域の方々と行政・学校などが協働し、子どもたちのより良い教育環境づくりに向け学校統合を推進しています。

これまでに87の学校・幼稚園を23校園に統合し、充実した教育環境を実現しています。



▲平成31年4月開校 向島秀蓮小中学校

京都ならではの食育

■食文化を継承する京都ならではの給食

にしんす、おからなど京都で受け継がれてきた伝統食や京野菜を取り入れた地産地消（知産知消）の献立、節分やひな祭りなど伝統行事と旬の食材を結びつけた献立等、全体の6割で和食献立を実施しています。また、「和食」がユネスコの無形文化遺産に認定されたことを契機に、月1回程度「和食推進の日」を設定し、「だし」のうま味を味わえる汁物や和菓子など伝統行事にちなんだ献立（「和（なごみ）献立」）を提供するなど、給食を通して日本の伝統的な食文化を学ぶ取組を進めています。

■味覚を育てる手作りの献立

具から作るがんもどきや春巻き、ルーから作るカレーやシチューなど、素材の味を生かした味覚を育てる手作りにこだわった給食を提供しています。



▲給食時間

■プロから学ぶ食育

日本料理アカデミー、中央卸売市場協会、京都青果合同株式会社、京都府漬物協同組合等との協働で、小学生が「だし」のうまみや旬の食材の調理などを通して、「京の食文化」を学びます。中学校では、全日本司厨士協会の協力のもと、テーブルマナーなどを学んでいます。



▲和食の料理人による食育授業

■栄養教諭の全校配置

食物アレルギーへの対応や食育の充実に向け、全ての小学校に栄養教諭（兼務）を配置しています。

■選択制中学校給食の充実

・生徒や保護者、学校現場の声を参考に、温かいメニューの開発や地産地消の推進など、献立の充実に取り組んでいます。また、小中連携の下、全校設置の食教育主任を中心に、「生きた教材」として給食を活用した食育を進めています。
・保護者がスマートフォン等から給食を申し込み、口座振替等ができる「給食予約管理システム」を導入することで、教員の働き方改革と生徒・保護者の利便性の向上を図ります。（平成31（2019）年度中を予定）

家庭・地域と進める 防災教育と学校防災体制の充実

災害時における子どもたちの安全確保を図るため、家庭・地域との連携のもと、子どもたちが災害に適切に対応する能力を育成する防災教育及び各学校園の防災体制の充実に取り組んでいます。

小・中学校9年間の学びと育ち

小中一貫教育の推進

「9年間の明確な教育目標」「系統的なカリキュラム」「継続性・一貫性のある指導体制」

- 義務教育9年間での子どもたちの豊かな「学び」と「育ち」を目指し、小学校と中学校が育てたい子ども像を共有する小中一貫教育を全市で実践しています。また、9年間の学びと育ちを一つの学校として支える「義務教育学校（本市名称は小中学校）」を設置しています（平成31年4月現在、全国市町村で最多7校）。
- 小学生が中学校に出向いて授業や部活動を体験したり、小学校と中学校の教職員が互いに授業や教育内容を学び合って指導力を高めたりするなど、小・中学校9年間を同じ施設で学ぶ学校だけでなく、すべての学校で創意工夫ある取組が進められています。
- 中学校入学時に学校生活に不応を起すいわゆる「中1ギャップ」の解消や学習指導の充実、学力向上など様々な面において、全国学力・学習状況調査や各種調査に成果が表れています。



▲体育大会で小学生と一緒に競技する中学生

学力向上に向けた取組

■全国トップレベルの授業日数

年間の授業日数を205日以上とするとともに、年間197回の学校給食を実施することで、国の学習指導要領の標準を上回る授業時数を確保し、多様な活動と豊かな学びの実現を目指す取組を進めています。

■京都市小中一貫学習支援プログラム

義務教育9年間を通じて児童生徒の自学自習の習慣化と確かな学力の定着を図るため、予習⇒確認テスト⇒復習を1サイクルとした小中一貫の学習支援プログラム（小学校「プレジョイントプログラム」・「ジョイントプログラム」、中学校「学習確認プログラム」）を小学3年生から中学3年生までで全15回実施しています。



■少人数学級・習熟度別の授業（本市独自予算）

- ・小学1・2年生で35人学級、中学3年生で30人学級を実施し、きめ細かな指導を行うとともに、小学3年生から中学2年生までの学級においても、国で定められた教員数に加えて約160人（平成30年5月1日現在）の教員を配置し、少人数教育を推進しています。
- ・幼稚園等から小学校への円滑な移行と学校での生活習慣や学習習慣の定着のため、小学1・2年生の31人以上のすべての学級において、複数教員によるチーム・ティーチングを実施しています。

■土曜学習

すべての小・中学校で、土日祝日などの学校休業日に、学校運営協議会や保護者・地域や学生のボランティア等の支援をいただき、学習活動や体験活動を行っています。



▲中学校での土曜学習

■未来スタディ・サポート教室

家庭環境にかかわらず、すべての子どもたちがその可能性を最大限に伸ばし、自らの未来を切り拓いていけるよう、すべての中学校で放課後等に基礎学力の定着を図るための学習会を行っています。

■自学自習のすすめ

「学びの基本」や「家庭での学習習慣を身につけるためのヒント」を示した「自学自習のすすめ」を小学校、中学校、総合支援学校の入学時に全児童・生徒に配布。日々の授業と連動した家庭学習を通して、自学自習の習慣化を図ります。



グローバルコミュニケーション力の育成

2020年東京オリンピック・パラリンピックを契機に、歴史都市・京都の魅力を外国からの訪問者等に子どもたちが自分の言葉で伝えて「おもてなし」できることを目指した英語教育を進めています。

■グローバルコミュニケーション力育成プロジェクト

- ・全小・中学校にALT（外国語指導助手）を配置し、英語によるコミュニケーション能力の向上とともに、異文化理解・国際理解教育を進めています。
- ・全小学校で、平成31（2019）年度から新学習指導要領（外国語等）に定められた時数を実施するとともに、2020年度からは1・2年生でも英語活動を全校で実施します。
- ・中学校では、英語検定の検定料補助を通じた受検奨励による主体的な英語学習の意識の涵養や、各校での生徒の英語力の把握・分析による授業改善を進めています。また、大学入試改革を見据え、英語4技能（「読む」「聞く」「話す」「書く」）の確実な育成とともに、特に「話す」技能の習得に向け、民間検定試験の活用（研究指定校での検定料は全額公費負担）やALTを活用したパフォーマンス評価の実施等、新たな授業手法の研究を進めています。
- ・小学校から中学校英語へのより円滑な移行を図るため、中学校1年生当初の指導改善も進めるなど、義務教育9年間を通じた実践的英語力の育成を着実に図ります。



▲英語による読み聞かせ

理科・科学好きな子どもを育てる

■青少年科学センターでの学習

- ・全市の子どもたちを対象に実験室やプラネタリウム、展示場等を利用した理科学習を実施しています。
- ・平成31（2019）年度の開館50周年にあたり、地球環境について立体的、視覚的に学べる「科学地球儀（仮称）」の新設、プラネタリウムのリニューアル（2020年7月完成予定）など、学習環境の充実に努めています。



▲科学地球儀（仮称）

新たな時代に求められる力の育成

■小・中・高等学校での体系的な取組の推進

- ・論理的思考力・情報活用能力の育成に向け、優れた実践を集めた事例集を作成し、企業等と連携して発達段階に応じたプログラミング教育を展開します。
- ・成年年齢の引き下げを踏まえ、政治的教養を育む教育（主権者教育）と消費者教育を関連付けた指導事例集等を作成し、小・中・高等学校での体系化した取組により、自立した市民（消費者）を育成します。

道徳教育の充実

■「考え・議論する道徳」の実現

「京都市道徳教育振興市民会議」の提言（平成16年）を踏まえ、学校・家庭・地域が一体となった「開かれた道徳教育」を推進しており、全小・中学校で、「道徳教育推進教師」の配置、「道徳教育推進月間（6月・10月）」における全学級での公開授業を実施するとともに、本市独自の指導計画や京都ゆかりの地域行事等を題材とした指導資料集を作成・活用しています。

また、道徳の教科化を踏まえ、指導・評価に関する教員用の手引書を本市独自に作成するなど、「考え・議論する道徳」への転換に向けた取組の充実を図っています。

社会的・職業的自立に向けた生き方探究教育（キャリア教育）

■京都まなびの街生き方探究館での学習

- スチューデントシティ（小学4～6年生）・ファイナンスパーク（中学生）学習

施設内に再現した「街」の中で、子どもたちが一人の大人として、接客・販売等の職業体験や家計の収入と支出を踏まえた生活設計体験を通して、社会と自分の関わり、経済の仕組み、働くことの意味などを学んでいます。



▲ファイナンスパーク学習

- 京都モノづくりの殿堂・工房学習（小学4～6年生）

「殿堂」では、京都のものづくり企業及び創業者、科学者等の努力や情熱等その生き方から学ぶ展示学習を、「工房」では殿堂で学んだものづくりの原理や仕組みを実際に体験する学習を行っています。

■生き方探究・チャレンジ体験（中学生）

約3,500の事業所等の御協力の下、約1万人の中学生が、3～5日間の職業体験・勤労体験活動を行っています。

学習環境の整備

■ICTの整備と活用

すべての普通教室のインターネット接続環境など、ICTを活用した学習環境を整備しています。また、学習用のタブレットパソコンの導入を順次進めています。

■普通教室の冷房完備

夏の暑い日でも集中して学習に取り組めるよう、すべての普通教室に空調設備を設置しています。

■学校図書館の充実～第4次子ども読書活動推進計画

- ・すべての小・中学校に学校司書を配置し、読書活動の推進や、授業での学校図書館の活用を進めています。
- ・京都市内産の木材を使用した机や椅子、書架の配置など落ち着いた環境の学校図書館づくりを進めています。
- ・京都市図書館では、専用車両「青い鳥号」での小・中学校等におけるブックトークや読み聞かせなどの学校訪問を継続するとともに、市立高等学校との連携による高校生の読書活動の推進を図ります。

心の居場所づくり

■こども相談センターバトナ

不登校をはじめとする、子どもたちの不安や悩み、保護者の心配や気がかりの相談等について、約40人のカウンセラーが相談に応じています。



▲こども相談センターバトナ

■不登校生徒の学びと育ちの場

独自のカリキュラムで学ぶ「洛風中学校」「洛友中学校」を設置。また、市内に設置する「ふれあいの杜」学習室では、学習支援やスポーツ、創作活動など多様な活動を通して、個々の状況に応じた支援に取り組んでいます。

■スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置を充実

臨床心理の専門職であるスクールカウンセラーを全校に配置し、さらには社会福祉等の専門職であるスクールソーシャルワーカーの配置校を拡大（平成31（2019）年度に全中学校区に配置）するなど、教育相談体制の充実を図っています。

- こども相談24時間ホットライン、いじめメール相談、SNSを活用した相談など、子どもや子育てに関する多様な相談窓口を設けています。

健康でたくましい体づくり

小・中・高等学校の全校全学年で「新体力テスト」を悉皆実施するなど、子どもたち一人一人が自らの体力に関心を持ち、積極的に運動に親しむ環境づくりを進めるとともに、PDCAサイクルを活用した体力向上の取組充実を推進しています。

■大文字駅伝

冬の「大文字駅伝」大会は、平成30年度に第33回を迎えました。市内の小学6年生が都大路をたくましく駆け抜けます。



▲大文字駅伝大会

■運動部活動の充実

- ・中学校では、単独で指導ができる「部活動指導員」の配置や専門性の高い「外部コーチ」の派遣、部員数が少ない場合等のための「合同部活動」、自校にない部活動に参加できる「ブロック内選択制部活動」等、生徒の希望と意欲を尊重する多様な取組を展開しています。
- ・小学校では、地域ボランティアの御協力を得るなど、各地域の特色を生かした部活動を実施しています。
- ・各校種で「部活動ガイドライン」を作成し、本来の意義や目的を踏まえた充実した部活動を推進しています。

興味・関心をのばす体験・学びの場

■長期宿泊・自然体験（小学4・5年生）

小学4年生で「奥志摩みさきの家」等に2泊3日、5年生で「花背山の家」等に3泊4日以上宿泊し、自然の中で集団活動等を行うことで、豊かな人間性を育みます。

■大人みんなが子どもたちの学び育ちのために！「みやこ子ども土曜塾」

土日祝日や夏休み等の学校休業日に、企業や大学、NPO等が実施する伝統文化・自然活動等の体験活動を、ホームページ及び情報誌で発信しています。

不断の改革を進め 飛躍し続ける市立高校

府立高校, 私立高校と共に, 京都の高校教育の発展を目指します。

高校改革の取組

予測困難な時代の中で新たな価値を創造していく力を育成するため、文科省において、高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的な改革が進められています。

市立高校での取組

- 「高校生のための学びの基礎診断」(平成31(2019)年度から試行実施)について、試行実施の段階から全校での実施を決定し、スタディーサポート及びGTEC※を活用して、基礎学力の定着に向けたPDCAサイクルを確立し、授業の工夫・改善を図ります。
- 「大学入学者共通テスト」(2020年度から実施)に向け、思考力・判断力・表現力等を育成する指導の工夫・改善を図っています。また、英語に民間の資格・検定試験が導入されることを見据え、2年生全員がGTECを活用し、英語4技能試験に対応できる力を育成しています。
- 新高等学校学習指導要領実施に向け、生徒が身につけるべき資質・能力を見据えた「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の展開による授業改善に取り組み、生徒に未来社会を生き抜く力を育てるとともに、一人一人に応じたキャリア発達を支援します。

※スタディーサポート…国・数・英の基礎学力を測定する民間の試験、GTEC…英語4技能(読む、聞く、書く、話す)を多角的に測定する民間検定試験

高校改革の取組

◇「新しい定時制単独高校」創設

伏見工業高校定時制及び西京高校定時制を再編・統合し、昼間・夜間2部制の新定時制単独高校を2021年度に開校することを目指しています。不登校生徒等への支援を目的としたICTを活用した遠隔教育、生徒が校内で気軽に学習・進路等の悩みを相談できる居場所づくりや、キャリアコンサルタントの配置による進路相談やキャリア教育の充実などを目指します。

◇「新しい普通科系高校」創設

洛陽工業高校跡地に塔南高校を移転・再編し、2023年度に新しい普通科系高校を創設します。塔南高校での教育実践を継承・発展させるとともに、「社会に貢献する生徒の育成」を学校の最高目標とし、教育内容の具体化を進めています。平成31(2019)年3月には、京都府内の高校初となる、学校・家庭・地域が共に学校運営について協議し行動する学校運営協議会を発足させました。

◇銅駝美術工芸高校の移転

2023年度に京都市立芸術大学を崇仁地域へ移転することとあわせて、銅駝美術工芸高校についても同敷地内へ移転させ、高大連携の取組を推進するとともに、新たな美術領域に対応した魅力あふれる教育の創造を目指します。

特色ある教育活動

◇西京高校・エンタープライジング科

文科省「スーパーグローバルハイスクール」校として、未来社会を創造する独創性とグローバルリーダー育成のための教育を推進。

◇京都工学院高校・プロジェクト工学科／フロンティア理数科

洛陽工業・伏見工業の統合・再編により平成28(2016)年4月に開校。科学・技術・工学・数学を一体的に学ぶSTEM教育を核とした教育活動を展開し、科学技術で社会に貢献する人材を育成。

◇堀川高校・人間探究科／自然探究科／普通科

文科省「スーパーサイエンスハイスクール」校として、新高等学校学習指導要領のモデルでもある探究活動を通して全国をリードする先進的な教育を推進。

◇日吉ヶ丘高校・単位制普通科

文科省「スーパーグローバルハイスクール」アソシエイト校として、校内留学施設「英語村」をプラットフォームに、異文化理解や論理的思考力も含めた国際コミュニケーション能力を育成。

◇紫野高校・普通科／アカデミア科

実践的英語力・活用能力を育むとともに、「ユネスコスクール」加盟校として、国際交流、異文化理解、環境教育の取組を推進。さらに、将来の学びにつながる探究学習を通じて「未来の国際人」を育成。

◇塔南高校・普通科／教育みらい科

移転・再編に向け、文科省指定事業を受けた学校運営協議会の研究や、「主体的学習者の育成」に更なる授業改善、学校改革に着手。全国初の教員養成学科「教育みらい科」も設置。

文化芸術都市・京都の芸術専門教育

◇京都堀川音楽高校・音楽科

全国で唯一の音楽専門の公立高校として、音楽を愛する生徒一人一人の夢の実現に向け、最高の教育環境で世界に羽ばたく音楽家を養成。

◇銅駝美術工芸高校・美術工芸科

充実した専門教育を展開し美術のエキスパートを育成。iPadを活用した美術教育の推進や、社会と繋がる対話的・協働的な深い学びを通して課題解決・社会変革する実践力を育成。

市立高校グローバルリーダー育成研修

市立高校生の代表が、約2週間、海外の子どもたちと暮らす施設でのボランティア活動や現地の人々との交流を通じ、世界に対する幅広い教養、国際貢献の大切さを学び、SDGsの目標達成とともに、自分が何をすべきか考えて主体的に行動できる力を身に付けます。

伝統文化事業の充実

全ての市立高校生が茶道の授業を行うとともに、能楽鑑賞等、伝統文化に親しむ機会を創出しています。

進学・就職実績(平成29(2017)年度卒業生)

生徒が自らの将来を見据え、主体的に進路を選択し、実現しています。

◇全日制9校の4年制大学現役進学率

57.9%(全国平均49.6%)

◇工業高2校・定時制2校の学校あっせんによる就職内定率100%

「新しい定時制単独高校」
外観イメージ



西京高校
SGH海外フィールドワーク



京都工学院高校
JAXA共同開発「プロジェクトZERO」



堀川高校
探究ポスター発表会



日吉ヶ丘高校
英語村「HELLO Village」



紫野高校
課題解決型学習「模擬国連」



塔南高校
キャリアフィールドワーク



京都堀川音楽高校
卒業演奏会



銅駝美術工芸高校
iPadを活用した美術教育

障害のある子どもへの教育の推進

インクルーシブ教育の理念に基づく一人一人のニーズに応じた教育の推進

総合支援学校を核としたきめ細かな教育の推進

平成16年4月、国の制度化に3年先駆け、全国初の「総合制」養護学校(現・総合支援学校)として再編・開校。一人一人のニーズに応じた「個別の包括支援プラン」を活用したきめ細かな教育を推進するとともに、総合育成支援教育相談センター「育(はぐくみ)支援センター」を全8校すべてに開設し、障害のある子ども・保護者への教育相談、就学前の子どもへの保護者等を対象とした早期相談や小・中学校等へのサポートを行っています。また、近年の児童生徒の増加や障害の重度・重複化及び多様化等に対応するため、呉竹総合支援学校の再整備をはじめ、障害のある子どもたちの自立と社会参加を目指した多様な学びの場づくりを進めています。

育成学級の設置充実

対象となる児童生徒が一人であっても地域の小・中学校に発達遅滞・情緒障害・肢体不自由等の障害種別ごとに育成学級を設置し、一人一人の子どもの障害や発達の状態、特性等にあわせた「個別の指導計画」を対象児童生徒すべてに作成して指導を行っています。

交流及び共同学習の推進について

総合支援学校や小・中学校等の育成学級に在籍する児童生徒・保護者の願いを踏まえ、「交流及び共同学習」を積極的に進めています。総合支援学校・育成学級の児童生徒には人間関係を広げ、社会性を豊かにする機会とし、普通学級の児童生徒には、障害のある児童生徒に対する理解を深め、望ましい人間関係を身に着けられるよう、学校行事への参加やスポーツ交流等様々な取組を実施しています。

通級指導教室の設置充実

LD(学習障害)等の発達障害の児童生徒を対象とする「LD等通級指導教室」や言語障害及び聴覚障害のある児童の指導を行う「こたばとこえの教室」、弱視児童への指導を行う「弱視教室」を設置しています。

毎年度設置校数を拡大しており、平成30年度には小中学校における通級指導教室を100校(政令市トップ、政令市平均の3倍以上)とするなど、支援の必要な子どもたちへのきめ細やかな支援に取り組んでいます。

また、平成30年度から国の制度化に伴い、高等学校における通級による指導を開始するほか、「高校通級特別支援チーム」が巡回相談・指導を行うなど高等学校における総合育成支援教育の充実を図っています。

発達障害等支援の必要な子どもへの支援の充実

発達障害等支援の必要な子どもの特性や、幼稚園や保育園(所)等での配慮・支援の情報を小学校に伝える「就学支援シート」事業を、政令市で初めて市内すべての就学前施設で実施しています。

また、学習補助や介助を行う「総合育成支援員」を希望するすべての学校・幼稚園に配置するとともに、どの子どもにとっても分かりやすい『授業・学級・学校づくりのユニバーサルデザインチェック表』や『LD等支援の必要な生徒への指導・支援ガイド』を活用しながら、「個別の指導計画」を必要とするすべての子どもに作成し、支援の必要な子どもへのニーズに応じた指導・支援の充実を図っています。

病気療養児への教育保障

入院や自宅療養で小・中学校等に通うことができない児童生徒に対しては、京都市立桃陽総合支援学校と在籍していた小・中学校等が連携して教育・支援を行っています。

桃陽総合支援学校の本校・分教室での授業や訪問教育を実施するとともに、ICT機器等を活用して、治療による生活規制で病室から出られない児童生徒へ分教室から授業を配信し、他の児童生徒とリアルタイムで共に学習する入院・自宅療養中の児童生徒に小・中学校等から授業や学校行事、学級活動の様子を配信し、教員・児童生徒との交流や学習を行うなどの取組を実施しています。また、高等学校段階の生徒については、病院と連携した学習会を開催したり、在籍校から授業を配信し、一定の条件の下で在籍校での単位認定を実現するなど、学習機会の確保や治療・復学後の生活に対する不安の解消を図っています。

白河、東山及び鳴滝総合支援学校高等部職業学科での職業教育の充実

就労を目指した取組を推進するため、企業や関係団体と連携の下、学校での学習と企業での3年間で約30週間の職場実習を組み合わせた「デュアルシステム」や進路指導等の充実を図るとともに、就労意欲の向上や継続につながる生徒の自己肯定感を育むため、地域協働の取組を推進しています。



職業学科での実習の様子

多文化が息づくまちづくりに向けた学校教育の充実

帰国・外国人児童生徒等への支援

本市では、国が制度化した平成26年度当初から帰国・外国人児童生徒等への「特別の教育課程による日本語指導」を実施するとともに、平成28年度からは、学校での受入時に迅速かつ的確に対応できるよう、日本語指導担当教員の派遣や母語支援員の配置などの総合的な支援を行うトータルサポート校を設置するなど、帰国・外国人児童生徒等への受入や日本語指導等の支援体制を充実しています。

多文化学習推進プログラム

京都で学ぶ留学生等を講師として招き、小中学生がその国の文化や言葉、遊びなどを体験する機会の充実に努めています。

多言語による
小学校生活スタートガイド



幼児教育と子育て支援の充実

主体的な遊びや活動と幼児期の発達にふさわしい生活を大切にする市立幼稚園

【市立幼稚園の特色】

- **自然に触れる園外保育を充実しています。**
京都の四季折々の自然を味わう園外での保育を通して、豊かな感性、好奇心、表現力を育みます。
- **京都の伝統を体験します。**
葵祭・祇園祭の見学、茶道体験等の伝統文化や、節分・子どもの日・お月見等、季節の行事を取り入れた保育を進めています。
- **命の大切さ、食の大切さを学びます。**
・うなぎなどの生き物を育て、生命を大切にする心を育んでいます。
・大根・豆・とうもろこしなどを栽培・収穫・調理などの体験を大切にしています。
- **研究発信に努めています。**
・幼児教育に関する研究を進め、公開保育・研究発表会場で研究成果を広く発信しています。

【市立幼稚園の教育・保育において重視する視点】

- 幼児が主体的に遊ぶ姿を重視する。
- 小学校期の学びにつなぐ「学びに向かう力」を育む。
- 自ら体を動かす意欲を育て、基本的な生活習慣を形成し、自信と自立心を育む。
- 自己発揮と自己抑制の調和のとれた自律性（折り合う心）を育む保育を推進する。



子どもたちの今と未来をみんなではぐくむ子育て支援

市内の幼稚園児の約9割が通園する私立幼稚園では、それぞれの園の建学の精神や教育方針に基づき、特色ある教育活動を実践されており、本市では、私立幼稚園への運営助成を通して、子どもたちの教育環境の充実に向けて取り組んでいます。また、子どもたちが小学校生活に円滑に移行できるよう、幼稚園をはじめとした就学前施設と小学校の教職員での合同研修や、子どもたちの交流など様々な取組を通して連携を進めています。

京都市子育て支援総合センター こどもみらい館

保育園（所）・幼稚園、国公立・私立の垣根を越えた共同機構として研究や研修を行う「こどもみらい館」では、親子で遊べる「こども元気ランド」や「子育て図書館」など魅力ある施設、子育て相談や講座などの開催、ボランティアの養成や子育てサークル等の情報発信など、乳幼児の子育てをあらゆる角度から支援しています。



▲親子ふれあい遊び

- 問い合わせ TEL：(075)254-5001
- 開館時間 平日 9:00～21:00
日・祝 9:00～17:00
(火曜日休館)

私立幼稚園・市立幼稚園で 進める子育て支援

■ 預かり保育の充実

ほぼすべての私立幼稚園が「預かり保育」を実施されています。本市では、私立幼稚園における「預かり保育」の充実に向け、独自の助成制度を創設し、預かり日数の拡大や預かり時間の延長を支援するなど、保護者の多様な教育・保育ニーズに応え、就労状況に関わらず、幼稚園を利用しただけ環境を整備しています。

また、市立幼稚園でも全国で長期休業期間中を含む平日18時まで預かり保育を実施しています。

■ 地域子育て相談

市内のほぼすべての幼稚園で、保護者の身近な子育てに関する相談を受けたり、園庭・遊具・図書室等の開放を行うなど、幼児の体験活動や保護者の子育てを支援しています。

- 問い合わせ 各幼稚園へ直接お問い合わせください。

親支援プログラム ほっこり子育てひろば

妊娠期から思春期までの子どもを持つ保護者同士が、子育てをする中で感じている不安や悩みなどをテーマに沿って語り合うワークショップ形式のプログラムです。喜びを感じながら子育てできるよう、子育てに必要な知識・情報を提供するとともに、親自らが育つための気づきと学びの機会を提供します。



▲ほっこり子育てひろば

- 問い合わせ 子ども若者はぐくみ局
子ども若者未来育成推進課
TEL：(075)748-0016
こどもみらい館 TEL：(075)254-5001

規範意識の育成・いじめの防止等の取組

規範意識の育成

- あらゆる教育活動において、子どもが人と人とのつながりを大切にするとともに、ルールや法の重要性について自覚できる取組を推進します。

■ 京都市子ども未来会議

学校のきまりや社会のルールを守り、主体的に判断・行動することができるよう、全市の小・中学校の児童生徒代表による「京都市子ども未来会議」を開催。決議の内容を全小・中学校に発信し、各校で規範意識を育む活動につなげています。

いじめ防止等の取組

- 「京都市いじめの防止等に関する条例」「京都市いじめの防止等取組指針」に基づき、いじめを許さない学校づくりを市民ぐるみで進めています。
- スマートフォンなど情報通信機器の普及による情報化が進む中、インターネット上での誹謗中傷やいじめが懸念されています。子どもたちが被害者にも加害者にもならないよう、PTAや携帯電話事業者等との連携を進めていきます。

薬物乱用防止の取組

- 薬物乱用防止教室の全小・中・高等学校での実施や、保護者への啓発活動、効果的な指導実施のための教職員研修の充実など、関係機関と連携しながら、大麻などの薬物乱用防止に向けた取組を推進しています。

頑張る先生を応援します!!

研修の充実・資質向上の取組

■ 京都市総合教育センター 研修の様子▶

平日夜9時まで、土曜日も夕方5時まで開館。「明日から使える」教科指導法など自身の資質・指導力向上に向け、年間延べ約5万人の教職員が熱心に研修に取り組んでいます。



また、教職員一人一人のキャリアステージに応じて持てる力が最大限発揮されるよう、学校・幼稚園内での実践的な研修・研究活動やOJTを支援しています。

■ カリキュラム開発支援センター

総合教育センター内3階に開設している「カリキュラム開発支援センター」では、教育図書や学習指導案など約5.5万点の教育関係資料を配架。多くの教職員が自主的な研修・研究に役立て、授業改善を図っています。また、優れた授業映像や教材などを「総合教材ポータルサイト」で配信しています。

魅力ある学校づくりにつなげる、学校・幼稚園の働き方改革

本市では、働き方改革を保護者・地域の方の御理解・御協力のもとで進めていくため、京都市PTA連絡協議会・各校園長会と教育委員会が連名で「学校・幼稚園の働き方改革推進宣言」を策定（平成30年3月）。平成30年度を「学校現場の働き方改革」元年に位置付け、校務支援員や部活動指導員の配置、部活動休業日の設定やICTを活用した業務の効率化の推進などの取組を進めています。また、夏休み及び冬休み期間中における休暇取得を促進するため、学校閉鎖日の拡大などを実施しています。

市民ぐるみでいじめを防ごう

～京都市いじめの防止等に関する条例及び取組指針について～

京都市教育委員会

- 取組指針の策定とともに、いじめの未然防止、早期発見、早期対応、再発防止等の取組を行う。
- いじめへの対応や教職員の資質向上、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置等を行う。

学校

- 学校いじめの防止等基本方針を策定する。
- 校内体制を整備する。
- 子どもの規範意識を醸成する。
- いじめの未然防止、早期発見、再発防止、いじめ事案への対応を行う。

京都市

保護者、市民、事業者、関係機関等と連携して、いじめの防止等の取組を京都市総体として推進する。



保護者

- 子どもがいじめをしないよう、健やかで心豊かに育む。
- 子どもがいじめを受けたら適切にいじめから保護する。

市民・事業者

- いじめの防止等の対策に積極的に協力する。
- 子どもが健やかで心豊かに育まれる環境の整備に努める。

子どもの命を守り、子どもが安心して生活し、学ぶことができるよう、共に取組を進めましょう。

実践力のある教員を養成

■ 京都教師塾 塾生による模擬授業▶

教員を志望する大学生や社会人を対象にした、政令指定都市初の教師塾。塾生は、学校現場での実地研修等を通して、現職教員の熱意や本市教育の理念に触れ、教師に求められる資質、実践的指導力に磨きをかけます。これまでに4,000名を超える塾生が学び、卒業生の多くが教員として活躍しています。



熱意あふれる教職員の表彰

■ 教育実践功績者表彰

優れた教育実践を行っている教職員やグループを表彰しています。表彰者の選考には、保護者・市民、経済界の代表にも参画いただき、幅広い視点からの意見を反映しています。平成30年度には233名、10団体が受賞しました。

保護者・地域の皆さまと共に

京都はぐくみネットワーク

～子どもたちのために考え行動する市民ネットワーク～

京都はぐくみネットワークは、「子ども・若者の今と未来のために大人として何ができるか」を共に考え、行動する市民ネットワークとして平成29年6月に「人づくり21世紀委員会」(平成10年発足)を改称し、新たにスタートしました。子どもの健全育成に関わる団体をはじめ幅広い分野から121の幹事団体(平成31年2月現在)と13の行政区実行委員会が参画しており、虐待やインターネットの不適切利用等、子どもたちを取り巻く様々な課題を共有するとともに、その解決に向けた研修会の実施など、「京都はぐくみ憲章」の実践と普及に取り組んでいます。

また、各行政区において組織されている「はぐくみ」ネットワーク実行委員会では、中学生と地域の大人とのふれあいトークや子育てトーク等、地域に根差した特色ある取組を展開しています。



◀中学生と地域の大人とのふれあいトーク

スマホ・ゲーム機等の危険性・依存性から子どもを守る

高度情報社会の進展により、将来不可欠となる情報機器を安全に有効に活用できる資質を育むことが求められます。小・中学校においては、家庭と連携を図りながら、スマホとの付き合い方を子どもたちが主体的に考える「スマホ学習」を実施しています。フィルタリングをはじめ、利用方法や目的、ルールやマナーについて御家庭で話し合いましょう。

また、情報モラル市民インストラクターをPTA研修会や地域の集まりにも派遣しますので、お気軽にお問い合わせください。



◀情報モラル市民インストラクターによる講座

問い合わせ：生涯学習部学校地域協働推進担当
TEL (075) 251-0456

PTAの取組 ～行動するPTA～

本市PTAでは、子どもたちの命と健やかな成長を守るため、危険薬物の乱用やネット被害、いじめの根絶等、「京都はぐくみ憲章」の理念のもと、様々な活動を行っています。

子どもたちがいきいきと充実した学校生活を送ることができるよう、保護者同士がつながり、先生方と力を合わせ、PTA活動に取り組んでいます。



▲人権月間における街頭啓発活動

おやじの会

～わが子の父親から地域のおやじへ～



◀発足15周年記念イベント

父親の積極的な子育て参加を目指して、市内の150を超える学校・幼稚園で「おやじの会」が発足。子どもとのふれあいをテーマとした体験活動など、年間1,000以上の事業を行っています。

また、父親の子育て参加に理解のある企業を「OK(O:おやじの/K:子育て参加に理解がある)企業」として認定し、その取組を推奨することにより、「真のワーク・ライフ・バランス」を推進しています。

放課後まなび教室



◀放課後まなび教室

放課後の子どもたちの「自主的な学びの場」と「安心・安全な居場所」の充実を目指し、余裕教室や図書室等の学校施設を活用し、全小学校区・全児童を対象として実施。保護者・地域・学校運営協議会・学生等の支援の下、子どもたちは宿題や読書・文化活動等を行っています。また、児童館や学童クラブ事業との連携も進めています。

市民ぐるみ・地域ぐるみで進める京都市の教育改革

小中一貫教育・校種間連携で進める京都ならではの教育

学力向上

- 全校での学力向上プランの作成
- 中学校「学習確認プログラム」・小学校「ブレジョイントプログラム」「ジョイントプログラム」
- 京都市スタンダード(指導計画)
- 30人学級・35人学級
- 専科教育・習熟度別指導
- ティームティーチング
- 205日以上の年間授業日数
- 未来スタディ・サポート教室

京都ならではの教育

- 大学との連携による教育の充実
- 環境教育
- 理科教育
- ICTを活用した教育
- 新聞を活用した教育
- 子ども読書活動
- 京英語スタンダード
- 伝統文化教育・ジュニア京都検定
- 食育カリキュラム・地産地消(知産知消)
- しなやかな道徳教育
- 長期宿泊・自然体験活動
- 土曜学習

【生き方探究教育(キャリア教育)】

- 生き方探究教育スタンダード
- 生き方探究・チャレンジ体験
- スチューデントシティ・ファイナンスパーク学習
- 京(みやこ)少年モノづくり倶楽部
- 京都モノづくりの殿堂・工房学習

支援の必要な児童・生徒の教育の充実

- 全国初の総合制・地域制の総合支援学校
- 個別の包括支援プランの作成・活用
- 育成学級・通級指導教室の新増設
- 総合育成支援員の配置
- 総合支援教育相談センター「育(はぐくみ)支援センター」
- 総合支援学校高等部職業学科・デュアルシステムの推進

市立高校改革の推進

- 西京高エンタープライジング科・中高一貫校
- 京都工芸繊維大フロンティア理数科/プロジェクト工学科
- 堀川高人間探究科/自然探究科
- 日吉丘高進学型単位制
- 紫野高アカデミア科
- 塔南高教育みらい科
- 京都堀川音楽高(公立音楽専門高校)
- 銅駝美術工芸高(公立美術専門高校)
- 「新しい定時制単独高校」創設
- 「新しい普通科単独高校」創設

児童・生徒の健全育成

- 【心の居場所づくり】
- 教育相談総合センター「こども119」
- スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置
- こども相談24時間ホットライン・いじめメール相談・SNS等を活用した相談窓口
- 不登校を経験した子どものための洛風中学校、洛友中学校、ふれあいの杜
- 学校経営支援ツール「クラスマネジメントシート」の実践

【規範意識の醸成・人権教育】

- 中学校生徒会会議宣言(8.18宣言)・中学校生徒会サミット宣言(8.29宣言)
- 非行防止教室
- 〈学校における〉人権教育をすすめるにあたって
- ケータイ教室
- 多文化学習推進プログラム

【健康教育・体力向上等】

- 小学校部活動
- 性教育・エイズ教育
- 中学校部活動
- フット物洗口
- 喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育

【学校安全対策の推進】

- 防災教育スタンダード
- 安心安全情報等の発信機能を持つPTAホームページの開設
- 防犯カメラの全校設置
- 緊急連絡インナーホンの教室への整備
- 通学路の安全対策

教員の指導力の向上

- 京都教師塾
- 教職員研修
- 教職員評価システム
- カリキュラム開発支援センター
- 教育実践功績表彰
- 指導力不足教員対策

教育環境の充実

- 京都方式の学校統合
- 学校冷房化
- 学校施設の耐震化
- 体育館・プールの防災機能強化
- 校内LAN・デジタルテレビ・電子黒板の整備
- 快適トイレ・洋式トイレの整備
- 花と緑あふれる学校推進事業
- 校庭の芝生化
- 緑のカーテン
- 環境に配慮した学校施設の長寿命化
- 雨水タンクの設置
- 太陽光・風力発電設備
- 学校施設の高度活用(児童館設置等)

開かれた学校づくり・学校を拠点とした地域コミュニティの活性化

- 学校運営協議会
- 学校評議員制度
- 学校評価支援システム
- 自由参観・参観週間の設定
- 学校だよりの地域回覧
- 全校でのホームページ開設
- 学校コミュニティプラザ事業
- 学校ふれあいサロン

ボランティア・市民の皆様とともに実施(共 汗)

市民・各団体の参画により政策を推進(融合)

- KES環境機構
- NPO法人気候ネットワーク
- 理科観察実験アシスタント
- 科学センターボランティア
- ICT活用支援員
- 食育指導員・だしの先生
- 学校図書館ボランティア
- 学校司書
- スチューデントシティ・ファイナンスパークボランティア
- 京モノレンジャー

- 総合育成支援教育ボランティア
- 総合育成支援員

- ふれあいアシスタント
- 学びのパートナー
- 洛風・洛友パル
- すばるパートナー
- 掃除に学ぶ「便きょう会」

- 小学校部活動指導者ボランティア
- 外部コーチ派遣事業

- スクールガードリーダー
- 学校安全ボランティア・見守り隊

- グリーンベルトボランティア
- NPO法人芝生スクール京都

家庭・地域の教育力向上・子育て支援

- 京都はぐくみ憲章
- 子どもと共に育む「親支援」プログラム(ほっこり子育てひろば)
- 行動するPTA
- こどもみらい館
- 家庭教育の手引(幼稚園)
- 子どもを育てる(小・中学校)
- おやじの会
- 電話相談・子育て支援ボランティア
- 放課後まなび教室
- 家庭教育講座
- 親子ふれあいサイエンスルーム
- 親子ふれあいの電話
- 親と子のこころの電話
- みやこ子ども土曜塾
- 京都はぐくみネットワーク
- 子どもの「インターネット」利用に関する連絡会議
- 情報モラル市民インストラクター

- 多彩な生涯学習の推進
- 生涯学習総合センター(京都アスニー・アスニー山科)
- 京まなびミーティング
- はたちプロジェクト
- 学校歴史博物館

図書館サービスの向上

- 全市立図書館の夜間・祝日開館
- インターネットによる蔵書検索・予約システム
- 図書館返却ポスト
- 学校への団体貸出・出前ブックトーク等による学校支援

- 博物館ふれあいボランティア
- 「古典の日」記念京都市平安京創生館」案内ボランティア

- 図書館ボランティア

- 社会教育委員会
- 生涯学習市民フォーラム
- 京都市内博物館施設連絡協議会
- 視聴覚センター運営委員会

- 図書館協議会

確かな学力・豊かな心・健やかな体の調和のとれた育成

生涯学習